

停電時に備えた対応に関するアンケート調査結果について（胆振：社会福祉施設等）

1 調査の目的

昨年11月27日（火）の未明から30日（金）午後までの4日間、胆振総合振興局管内等で大規模な停電が発生し、停電となった入所・居住系の社会福祉施設等においては、関係者の適切な対応により、入所者等の健康に大きな影響をもたらすことなく終息したが、照明や暖房の確保、食事の提供などに苦慮されたところ。

社会福祉施設等においては、突発的な停電等の緊急時においても、「利用者の安全・安心を守る」対策を講じることが求められることから、道では、本道の特性を踏まえ、今後の緊急時の対策を検討する際の参考とするため、停電になった施設・事業所等を対象に停電時の対応状況等についてアンケート調査（以下「調査」という）を実施した。

2 調査対象施設等

胆振総合振興局内の社会福祉施設等（停電の影響を受けた施設）

3 調査方法

調査用紙を各施設に送付し、回答をFAX等により回収

調査対象施設	47施設	回答施設	45施設	回答率	95.7%
--------	------	------	------	-----	-------

4 調査結果の概要

（問1）11月27日（火）から30日（金）までの停電状況（回答：45施設）

区 分	施設数	回答施設数に対する割合
①停電発生日当日のみ停電	9	20.0%
②延べ2日間の停電	27	60.0%
③延べ3日間の停電	2	4.4%
④延べ4日間の停電	7	15.6%

（問2[1]）停電時における非常用電源としての自家発電装置等の保有状況（回答：45施設）
（複数回答）

①大型自家発電装置を設置	大型自家発電装置を未設置			
	②可搬式発電機を保有	③停電期間中に可搬式発電機を確保	④自家発電機は保有していない	
6	39	0	10	29

- 施設に設置している大型自家発電装置の平均発電容量は、70.7KW、平均稼働時間は3.6時間
- 大型自家発電装置を設置している施設のうち2施設については、停電時に可搬式発電機を併用
- 停電期間中に可搬式発電機を確保した10施設のうち2施設については、稼働準備中に停電が解消したため、可搬式発電機を活用していない。

（問2[2]）自家発電装置等を活用して稼働させた施設の設備について（回答：14施設）

（複数回答）

ライフライン等の種別	施設数	備 考
照明	14	
暖房	11	
保冷設備	9	
水道	6	
調理設備	4	
その他	9	エレベーター（1）、ナースコール（1）、給湯（3）、電話（3）、防犯システム（2）

(問3) 施設の緊急時に備えた必要物品の備蓄状況について

[1] 停電時に備蓄していた物品 (回答: 45施設)

(複数回答)

備蓄していた物品	施設数	回答施設数に対する割合
ランタン・懐中電灯等	44	97.8%
食料	31	68.9%
ラジオ	27	60.0%
飲料水	26	57.8%
毛布・防寒着・カイロ等	26	57.8%
卓上コンロ	23	51.1%
ポータブルストーブ	14	31.1%
灯油	9	20.0%
携帯電話充電器(携帯型)	7	15.6%
電池	2	4.4%
軽油	2	4.4%
使い捨て食器	1	2.2%
ポータブルトイレ	1	2.2%
水用タンク	1	2.2%
メガホン	1	2.2%
ヘルメット	1	2.2%

[2] 必要だった(備蓄していた良かった、備蓄しておけば良かった)物品【上位3つまで】(回答: 45施設)

(複数回答)

必要だった物品	施設数	回答施設数に対する割合
ポータブルストーブ等	27	60.0%
ランタン・懐中電灯等	23	51.1%
卓上コンロ、ガスコンロ、ガス調理器	13	28.9%
食料・飲料水	13	28.9%
乾電池	11	24.4%
燃料(灯油・軽油)	10	22.2%
自家発電装置、可搬式発電機	7	15.6%
ラジオ	5	11.1%
携帯電話充電器(携帯型)	5	11.1%
毛布	3	6.7%
使い捨て容器	1	2.2%
便座シート	1	2.2%

(問4) 停電時の施設の食事状況について(回答: 45施設)

(複数回答)

食事の状況	施設数	回答施設数に対する割合
卓上コンロで調理を行った	21	46.7%
通常どおり提供できた	18	40.0%
備蓄品を提供した	14	31.1%
外部から弁当等を調達	9	20.0%
その他 給食事業者からの提供(2)、隣接する 病院からの提供(1)、市の炊き出しか らの提供(1)、避難先での提供(2)、 メニューを変更し提供(3)	9	20.0%

(問5) 停電時の貴施設のライフライン等の状況について

[1] ライフライン等の種別毎の使用状況、また、使用不能時の主な対応内容 (回答: 45施設)

ライフライン等の種別	①使用可能	②使用不能	使用不能時の主な対応
照明	3	42	・ランタン、懐中電灯、ロウソクを使用
暖房	2	43	・ポータブルストーブを使用 ・厚着、毛布、湯たんぽ、カイロ等に対応 ・早めの臥床
水道	36	9	・備蓄飲料水の使用 ・市や他施設から飲料水の提供を受けた ・生活用水は浴槽等の溜め水を活用
ガス※	21	1	・調理は卓上コンロで行った
電話	11	34	・携帯電話、公衆電話を使用 ・非常用電話を使用

※電磁調理器等の使用により、ガス設備を有さない施設等は未回答

[2] ライフライン等が使用不能となった際に、最も、対応に苦慮したこと【自由記載】

(主な意見)

暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房が使用できないことによる寒さ対策、避難することで解消 ・ポータブルストーブをホームセンターで手当てしたが、在庫少なく、苦労した ・灯油の手当もガソリンスタンドが稼働せず、遠方で手配した ・暖房が止まりポータブルストーブが購入出来ず大変であった ・食事後すぐに就寝したが、市からストーブの持ち込みがあり安心した ・防寒着を着たり、夕食は早めに済ませ臥床していただいた (ポータブルストーブは危険が考えられる (認知症のため))
照明	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の灯りの確保 (ランタンや懐中電灯の明かりでは不十分で対応に苦慮した) ・電灯がつかなく廊下等での利用者の安全確保 ・非常用照明がバッテリー式のため照明の確保に苦慮 ・暗くなる時間帯から利用者達が不安だったことに対する対応 ・暗い中での移動で転倒しないこと
食事・水回り	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房がオール電化のため、通常の調理ができなかった ・卓上コンロを使って調理したが時間がかかる ・エレベーターが使用できず食事を人出で搬送 ・水道は使用できたが、浄化槽が使用出来ず、バキュームカーで汚水を汲み上げてもらった
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースコールが使用できないので見回りに苦慮 ・ナースコールが鳴らず鈴を使用した、巡回を多くして対応。 ・サクシオンが使用できないことや、アイスノンが溶けた ・ポータブルストーブ使用による利用者の事故等の危険回避
情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が入らず、復旧の見通しの目処が立たないため不安が募った ・グループホームが10カ所あり、電話が繋がらないことで各ホームの状況把握に時間を要した ・入居者の家族との連絡がとれなかった

○暖房に関する意見を述べたのが17施設と最も多く、次いで照明に関する意見が14施設、見守りや事故防止などの安全確保に関する意見が8施設、食事や水回りに関する意見が7施設からあった。

[3] 今回の停電を踏まえ、今後に向けて準備すべきと感じたこと【自由記載】

〔主な意見〕

電 源 確 保	<ul style="list-style-type: none"> ・可動式の発電機等を準備 ・小型発電機（2, 000wクラス）の導入 ・発電設備等の設置、購入 ・非常発電装置があり、非常照明が点灯できたが、給水、暖房、照明、エレベータなどを稼働させるために自家発電装置があればと強く感じた。しかし、多額の設置費用を要する課題がある。 ・暖房・照明・エレベーター等を稼働させるため、自家発電装置があれば思うが、多額の設置費用を要する ・非常時に切り替えて暖房が稼働できるようにするための配電設備
暖 房	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房機器、暖房器具類の購入（ポータブルストーブやゆたんぼ等） ・ポータブルストーブの追加購入 ・ポータブルストーブ、毛布、ゆたんぼ、防寒着等の準備
照 明	<ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯やランタンの数を増やす ・懐中電灯の増量、廊下・足元等への反射板の設置、灯油ストーブの検討 ・照明器 ・乾電池のストック増量
食 事 水 回 り	<ul style="list-style-type: none"> ・卓上コンロやガスボンベ（オール電化のため）、 ・保存できる食品等の確保が必要である ・食料品、飲料水等の備蓄 ・トイレ対策のため風呂の水を溜める
危 機 管 理 ・ 情 報 伝 達	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の指揮命令系統の確立、行政、業者等への連絡先の把握 ・職員への連絡網の整備（災害内容ごとに） ・緊急連絡網の見直し ・近くに住む職員には職種を問わず応援に駆け付けられる体制にしたい ・各関係機関と連絡がとれなかったため非常時の携帯電話等連絡先の把握 ・停電により電話が使用できなくなり、ご家族からの電話を受ける事が出来なくなった。緊急時にでも使用できる携帯が必要と感じた ・ラジオの購入 ・携帯用テレビ（被災地以外がどう評価し情報を収集しているか。ラジオでは選局数が限られており、情報が錯綜していたという印象がある） ・携帯電話の充電器

(問6) 停電時の職員体制について(回答: 45施設)

停電時の職員体制	施設数	回答施設数に対する割合
①非番の職員を動員し、平常時より多人数で対応した	20	44.4%
②平常時と変わらない体制で対応した	23	51.1%
③平常時に満たない体制で対応した	2	4.4%

(問7) 停電時の対応(医療機器等を使用している入所者のいる施設)(回答: 3施設)

(複数回答)

停電時の対応	該当施設数・該当入所者数	
	酸素濃縮器	痰吸引器
該当施設数	3	1
①医療機器の内蔵バッテリーや外部バッテリー対応	1	
②酸素ボンベにより対応	2	
③一時的に医療機関に転院で対応		1
④医療機器メーカーとの連携	1	
⑤電気を使用しない機器		1

(問8) 停電時の避難状況について

[1]施設から他の場所への避難の検討状況及び[2]避難した場合の避難先 (回答：45施設)

(複数回答)

避難状況	施設数	避難先 (避難の検討先)
①避難を行った	6	・同種・類似施設 3施設 ・自宅へ帰宅 2施設 ・他の施設 1施設 ・隣接の医療機関 1施設
②避難を検討した	6	・同種・類似施設 3施設 ・母体の医療法人 1施設 ・(福祉)避難所 2施設 ・市内のホテル 1施設
③避難を検討しなかった	33	

(問9) 停電時の近隣住民 (在宅要援護者を含む) の受入れ (地域開放) 状況 (回答：45施設)

近隣住民の受入状況	施設数	地域開放の内容
①行った	6	・空き部屋での受入 2施設 ・ショートステイでの受入 1施設 ・他施設入居者の入浴提供 1施設 ・地域開放を行ったが利用者なし 2施設
②行っていない	39	

(問10) 地元市町との連携状況 (回答：45施設)

(複数回答)

地元市町の連携状況	施設数	回答施設数に対する割合
①情報共有 (入所者の状況等)	26	57.8%
②食料品や飲料水の提供を受けた	3	6.7%
③機器 (暖房器・発電機等) の提供を受けた	7	15.6%
④物品 (毛布等) の提供を受けた	1	2.2%
⑤その他 (連絡不能・連携はなかった等)	17	37.8%

(問11) 今回の停電時における、行政 (地元市町・道) や電気事業者の対応に関し、改善すべきと考えられること【自由記載】

〔主な意見〕

停電に関する情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をもっと流してほしい ・停電の復旧にどの程度かかるのかの情報を知らせてほしい、職員体制の確保や避難するか判断が遅れてしまった、食糧の確保に苦慮した ・広報車が回っていたとのことであるが全く聞こえなかった ・ラジオで情報を得ようと思ってもあまり情報が流れなかった ・営業しているガソリンスタンドの情報が欲しかった
行政の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの安否確認も電話が使えるようになってからだったが、それでは遅いと感じた、遅くなってからでも良いので来てほしかった ・より迅速な対応を望む
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時行政との連絡方法の整備をお願いしたい ・行政は、危機管理体制の再構築を図るべきと考えます
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自家発電装置の導入に対する補助制度の強化を望む

(問12) 今回の停電によって改めて施設の対応として必要だと感じたこと【自由記載】

〔主な意見〕

指揮命令・役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の指揮命令系統の確立 ・緊急時における職員の配置 ・職員出勤不能時対応
連絡体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の連絡網の整備（災害内容別に） ・情報交換の手段 ・近くに住む職員には職種を問わず応援に駆けつけられる体制にしたい ・災害時、職員確保も難しいので、人員確保や応援体制を明確にしておく ・各関係機関と連絡がとれなかったため、非常時の携帯電話番号等連絡先の把握
ライフラインの停止に備えた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ランタン、懐中電灯の確保（数を増やす）、防寒着や毛布 ・介助時に両手を使用できる電灯用意 ・廊下、足下等への反射板の設置 ・暖房機器（ポータブルストーブ等）の追加購入（燃料の確保） ・乾電池は多めにあると良い（店で品切れで遠方まで買いに行った） ・発電機による非常照明、非常暖房の設置 ・非常時に切り替えて暖房が稼働できるようにするための配電設備 ・暖房を稼働させるための大型の自家発電機と配電設備 ・オール電化の生活が便利と思っていたが、停電で全て生活できないことを痛感、電気に頼らないものを用意したい ・非常食、飲料水の備蓄、飲料水用タンクを多めに確保 ・ポリ容器の購入（断水時の給水確保のため） ・トイレ対策のため、風呂の水を溜める ・緊急用の発電機により、給水ボイラーを作動させることを検討したい ・卓上コンロやガスボンベ（オール電化のため） ・カセットコンロのガスボンベを多めに備蓄 ・停電時用にガス調理機器を購入した ・長期化すれば食事の確保が一番と感じている ・各関係機関と連絡がとれなかったため、非常時の携帯電話等連絡先の把握 ・携帯電話の充電器が必要だった ・携帯電話の充電器の確保（手廻し式） ・固定電話が使えなくなったため、連絡の取り合いに携帯電話を使用した。電池の消耗が早く充電が頻回に必要だった（充電器を多めに確保） ・停電により電話が使用できなくなり、ご家族からの電話を受ける事ができなくなった。緊急時にでも使用できる携帯が必要と感じた ・法人内の連携のために法人本部に緊急特別ダイヤルの設置
非常用自家発電装置	<ul style="list-style-type: none"> ・発電機の購入予定 ・非常用発電装置があり、非常照明が点灯できたが、給水、暖房、照明、エレベーターなどを稼働させるために自家発電装置があればと強く感じた ・暖房・飲料水・ナースコール・食料の確保が重要で、そのため、緊急用の発電機により、ボイラー、給水ボイラーを作動させることを検討したい ・非常用の自家発電により、ほとんど通常と変わらない生活ができた
必要物品の備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の備蓄 ・長期を予測して食料の確保 ・非常食在庫の見直し ・緊急時に備えた物品等が不足しているため、日頃から用意しておくことが必要 ・備蓄として必要な物品の見直しと量の確保
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携・協力関係をつくること ・今後は地元自治会と連絡をとりながら、地域の高齢者等の避難受け入れ態勢を整えたい